

さって市民環境ネット



「浮きウキフェスタ22」における
浮島づくりイベント会場

所 在：幸手市

構成員：15名

『幸手市環境基本計画』策定（平成16年）に参画した市民グループをコアとし、どんな活動ができるか、「他組織との協働」、「次世代への継承」をベースに環境活動をスタートしました。

現在の活動は、「浮島づくり」、「腐葉土づくり」、「生態系の観察・保全」、「エコライフ DAY」、「なたね油作り」「環境講座の開催」などです。

浮島づくり

～行幸湖の水をきれいにし、水辺の生態を豊かにしよう～



受賞の取組

- ・ 権現堂調整池でのビオトープとしての浮島づくり
- ・ 浮島づくりへのカヌークラブやこどもエコクラブ、企業、近隣住民など、拡がる参加者
- ・ 設置した浮島は37基

取組をはじめたきっかけ

平成17年9月に、幸手市環境課を通じて「NPOとよあしはら」から、浮島つくり開催の依頼を受け、11月に権現堂調節池（呼称：行幸湖^{みゆきこ}）で第1回「浮島つくり」を開催しました。

この計画はビオトープとして浮島を作り、湖沼の水質浄化や水辺の自然再生などを図るもので、埼玉県がNPO協働提案推進事業のひとつに取り上げ、NPO法人とよあしはらが実施したものです。

行幸湖は前年の国体でカヌー競技場として使用されましたが、アオコの発生に悩まされています。また、調節池（平地ダム）の役割上コンクリート護岸に囲まれており、水深は夏冬で約7メートルの差があることから水辺の自然を感じさせる景観に欠けていますが、浮島はそれらに対処するものとして位置づけられました。

これからの展望

第1回以降、平成23年の第7回まで年1回イベントを開催。21、22年は埼玉県「川の再生」事業に組み込まれるなどして、製作した浮島の総数は47基。参加者70名（うち子ども17名）で始まりましたが、第7回の参加者は260名（うち子ども90名）強を数えるまでになりました。参加団体も市民団体、企業、学校などに広がり、イベントの内容も多岐にわたってきました。こうした行政・企業・市民団体・学校の協働による活動の広がりを大事にしながら、活動の継続に繋げていきたいと思えます。



竹と丸太を組んだイカダに、アシの苗を入れた炭袋をのせる。完成した浮島は竹のレールの上を滑らせ湖面に進水する。



行幸湖に浮かんだ浮島
1年前に作った浮島は、草が生え魚や水鳥、カメなどがあつまり、ビオトープを形成している。

受賞して

たいへん光栄であり、今後の活動の励みになります。ありがとうございました。

